

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいずカレッジ		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 19日	～	令和8年 1月 24日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	45名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 19日	～	令和8年 1月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	毎月、新しいカリキュラム表を作成し、様々なスキルを獲得できるように、活動を実施している。 SST、作業トレーニング、PCスキル、生活スキルの向上を目指している。	パソコンやタブレットは1人一台使用し、空白の時間がないようにしている。 様々な活動に参加できるように、プログラムを曜日固定せず実施している。 分かりやすい言葉や標記を心掛けている。	飽きのこないプログラムを提供するために、毎月スタッフ間で、次月のカリキュラム作成の検討を行う。 他事業所とミーティングの時間を設け、カリキュラムについての検討会を実施する。
2	駅から徒歩1分の立地のため、電車やバスなど公共交通機関の利便性が高い。 電車やバスを利用した通所ができる。	自立に向け、電車やバスに実際に乗車する活動を実施している。 切符の買い方、時刻表の見方、お金の使い方等を通じ、自立訓練の場となっている。 エスカレーターやエレベーターを自分で利用できるように心がけ、自分で行くことを意識付けている。	Suicaなど、チャージ式のICカードを使用し乗車できない地域なので、使用できる地域へ外出イベントを実施し自立心の向上を高めていきたい。 自分たちで行動できるよう、スマホを持参し集合時間を決めて行動するなど、活動の場が広がるよう工夫していきたい。
3	相談支援事業所と連携し、卒業後の就労サービスへの移行をスムーズに行うことができる。	面談を実施する際は、管理者も同席し、事業所での様子をお伝えし情報共有を行っている。 就労移行支援等で実習がある際は、相談と連携を図りながら体調を考慮し、無理のない活動ができるよう配慮している。	就労等へ移行後も、いつでも情報共有を行えよう関係性の構築に努める。 放デイ卒業後も、話をきいたり悩み相談ができるよう、安心できる場の提供をし、繋がりを大切にしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流が少ない。 児童クラブや児童館との交流の機会がない。	事業所内でのイベントになってしまい、交流の場が設けられていない。 イベントを企画し地域へ発信が必要である。 平日の交流は難しいため、土曜長期休暇に実施する必要がある。	地域の行事を把握し、外出イベントを実施する。 事業所で「ゴミ拾いイベントなど」などを企画し、地域に貢献できる活動を実施する。 自立支援協議会主催のワークショップなどに参加する。
2	保護者会、保護者同士の交流の機会が少ない。 今年度は、ペアレントトレーニングの実施ができなかった。	ペアレントトレーニングを実施できるスタッフの研修を行う。 高学年の受け入れになると、参観日の参加率が低下するようになるので、SNSなどで発信を継続していく。	ペアレントトレーニングの研修会を行い、常にどのスタッフでも実施できるようにする。 卒業生やそのご両親を事業所にお招きし、講話をいただくなど交流の場を設けていきたい。
3	職場体験や職場見学が少ない 見学の場が就Bなど福祉サービスに偏ってしまい、一般企業への見学や体験ができていない。	利用児の次月の予定の把握が難しい。 訪問先の日程調整が難しい。 見学だけで終わるのではなく、体験を取り入れていきたい。	利用児の予定を把握し、多くの児童・生徒が参加できる機会を増やしていく。 平日の開催は難しいので、比較的実施しやすい、土曜・長期休暇に計画の立案を行う。